

高校受験理科・攻略日誌

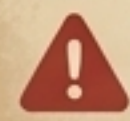
才能ではなく「装備」で勝つゲーム



「暗記が多すぎてテスト本番で忘れる」



「物理や化学の計算・思考問題になるとお手上げ」



もしあなたがそう感じているなら、
今日でその「**思い込み**」を捨ててください。



理科の点数が伸びないのは、センスがないからではありません。脳の仕組みに逆らった「**気合の暗記**」をしているからです。



理科は5教科の中で最も「**短期間で一気に点数を上げやすい**」科目。出題パターンは完全に決まっています。探検家チーム「L.O.O.Q」と共に、未知の領域を踏破する「**4つの装備と戦略**」を手に入れましょう。

理科の得点を支配する 「掛け算」の法則



Warning

これら4つの能力はすべて「掛け算」でつながっています。



Consequence

どれか1つでも「ゼロ」の要素があれば、他の能力がどれほど高くても、全体の点数は必ずどこかでストップしてしまいます。



Action

自分がつまずいている「原因（ゼロになっている要素）」を特定し、正しい武器を装備するだけで、道は開けます。

① インプット量：THE SEEKERの「照らし出すランタン」



旧常識の破壊

「一問一答の単語帳をひたすらめくる」のは、脳にとって最も記憶に残りづらい方法。単発の丸暗記では応用問題に太刀打ちできません。

Step 1 (照らす) :
スマホで実験映像を見る



映像授業 × 問題演習の
「即時サイクル」

Step 2 (定着) :
直後に、問題演習
をセットで解く



Step 2 (定着) :
直後に、問題演習
をセットで解く

× Bad



斑状組織＝火山岩

○ Good

マグマが
地表で急冷



結晶が育つ
時間がない

粒がバラバラ
(斑状組織)
＝火山岩

正しい暗記：原因と結果のストーリー
(クモの巣) で頭に叩き込む。

② 計算力：THE PATHFINDERの「見抜く望遠鏡」



旧常識の破壊

「公式が多すぎて覚えられない」は勘違い。高校入試の理科には、問題用紙に「絶対に間違えない公式のカンニングペーパー」が最初から印刷されています。

戦術：単位の「数式解読（ハッキング）」

ターゲット：密度を求める問題

暗号（単位）：「 g/cm^3 」



解読（変換）：「/（スラッシュ）」は算数の「÷（わり算）」と全く同じ。

アクション：「グラム ÷ 立方センチメートル」をすれば答えが出る。単位が計算方法をそのまま教えてくれている！

解読（変換）：「/（スラッシュ）」は算数の「÷（わり算）」と全く同じ。

アクション：「グラム ÷ 立方センチメートル」をすれば答えが出る。
単位が計算方法をそのまま教えてくれている！

③ 記述力：THE SCRIBEの「描き出すペン」



旧常識の破壊

「なんとなく合っているからマル」は絶対にありません。採点者は、あらかじめ決められた「採点キーワード」が入っているかだけを機械的にチェックしています。記述は作文ではなく「パズル」です。

戦術：採点キーワードの「パズル化」

問題：「コップの表面に水滴がつくのはなぜか？」



答え合わせの際、解答文の中から絶対に外せない「名詞」と「動詞（変化を表す言葉）」を見つけ出し、丸で囲むクセをつけましょう。このキーワードパーツを見つけ出し、つなぎ合わせる練習を繰り返す。

④ 論理的思考能力：THE GUIDEの「見定めるコンパス」



旧常識の破壊

後半の大問に出る「初見の実験」で試されるのは暗記量ではありません。
「何を変えたのか（対照実験）」を読み解く論理的思考力です。これが偏差値60の壁を越える最大の鍵です。

戦術：対照実験の「ロジカル分析」

A/B テスト比較表

条件	実験A	実験B
水の量	100ml	100ml
温度	20℃	40℃
光の強さ	同じ	同じ

「温度だけを変えて、他の条件はすべて同じにしている」＝
「出題者は温度の影響（目的）を確かめようとしている！」



問題文のグラフや実験手順を見たとき、「**変えた条件（原因）**」と「**その結果どうなったか（結果）**」に必ずペンで線を引くクセをつけましょう。日頃の演習から、「なぜこの実験をする必要があるのか？」と一歩踏み込んで考える習慣をつける。

理科は才能ではない。正しい「力の掛け算」で勝つゲームだ。



自己診断チェックリスト（あなたに足りない装備はどれ？）

☐ 用語を忘れる・つながりがない ⇒ ① インプット（ランタン）不足：映像と問題演習をセットにする。



☐ 計算問題で手が止まる ⇒ ② 計算力（望遠鏡）不足：単位を数式として解読する。



☐ 記述でいつも減点される ⇒ ③ 記述力（ペン）不足：名詞と動詞のキーワードをパズル化する。



☐ 初見の応用問題で白紙になる ⇒ ④ 論理的思考（コンパス）不足：実験の「変えた条件」に線を引く。



もし次の模試で点数が悪くても、「センスがない」と落ち込む必要はありません。
方程式のどこで「エラー（ゼロ）」が起きているかを冷静に分析してください。
自分がつまずいている原因をピンポイントで見つけ出し、的確な装備で挑みましょう。さあ、探検を始めよう。